ぴーちっこ

発行　社会福祉法人　聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）
聖友学園（児童養護施設）

聖友ホーム応援団　聖友ホーム ささえ隊　会員募集中！

「ささえ隊」について詳しくはＨＰまたはチラシをご覧ください

フレンドホーム ご紹介

週末里親さんを訪問しました♪

『フレンドホーム』とは、「家庭生活の体験は子どもの成長において重要」と考え、施設の子どもを、週末・夏休み・冬休みなど一時的にボランティアさんの家でお預かりいただく東京都が設置した制度。今回は、聖友乳児院のAちゃん（２歳男児）の“週末里親”としてご協力いただいているTさんご夫婦のお宅を訪問して、お話を伺いました。

♪これまでの経緯は？

「妻が聖友乳児院で遊びの補助のボランティアをしていたのがきっかけで、フレンドホームに応募しました。Ａちゃんとの初顔合わせ（’19年３月）　から約一ヶ月間は週末ごとに乳児院を訪れて３人で面会、４月からは日帰りでお預かりして徐々に慣らし、ＧＷ明けに宿泊のお許しが出ました。

それ以降、こちらの都合に合わせて日帰り又は宿泊の予定を組んでいただき、体調不良でキャンセルとならない限り、週末にＡちゃんが来宅します」

♪週末はどのように過ごしていますか？

「平日は仕事で忙しくしていますがＡちゃんが来る日を心待ちにし、当日は栄養ドリンクを飲んでスイッチを入れ、乳児院に迎えに行きます。

来宅後、宿泊する日は昼食、お昼寝のあと、近所の公園や児童館へ遊びに行きます。公園では走り回ったり、児童館ではよそのお子さんと交流したりすることも。食事は何でもよく食べてくれますよ。手作りの炊き込みご飯やハンバーグをはじめ、豆類などが好きなようですね。

Ａちゃんは電車が大好き！
お天気の良い日は近所をお散歩

就寝は午後７時半～８時頃。当初は寝かしつけるのに２時間位かかり、疲れることもありましたが、最近は寝つきもスムーズになりました。翌朝はＡちゃんから「起きてー」と声をかけられて起床。３人で楽しく休日を過ごします」

♪フレンドホームになられたご感想は？

「初対面の際、Ａちゃんはハイハイをしていましたが、おいで！と声をかけると頑張って立ち上がり、よちよちと歩いて近づいてきてくれたことが、とても印象に残っています。

その出会いからこれまでの８ヶ月間で、身長もグンと伸び、言葉も話すようになり、会話もできるようになって…という一番良い成長過程で携われたのではないかと嬉しく思っています。

フレンドホームを始める前は不安もありました。が、実際にやってみると子どもは可愛いし、多少なりとも成長のお役に立てている実感もありますし、もし何かあれば２４時間いつでも乳児院に連絡できるので、すっかり不安も解消されました。Ａちゃんがいる間は片時も目が離せない等の大変さもありますが、それよりも喜びの方がはるかに大きいです。

いつかＡちゃんの“週末里親”を卒業しなければならない日もくると思いますが、それまではこの時間を大切にしたいと思います」

優しいご夫婦のもと、Ａちゃんはとてもリラックスしてオモチャで遊んだり食事をしたりしていました。フレンドホームの方々のご支援に改めて感謝いたします。

聖友学園 若松園長 仲間の遺志を継いで 広島・長崎リレーマラソンに参加

核兵器のない平和な世界の実現を願って、全国からランナーが集まり、毎年夏に開催される『広島・長崎リレーマラソン』。８月６日に広島をスタートして８月９日に長崎でゴールするまでの約４２３㎞をグループごとにリレー形式で走る大会に、聖友学園の若松園長が参加しました。その理由とは…

「彼のために何かできないか」という思いで参加を決意

私(若松)と親交の深かった渋谷区の児童養護施設長が、2019年２月、元入所者による事件に巻き込まれ急逝しました。彼とは同じ学年で、児童養護施設長という立場も同じ。月例の児童部会などで顔を合わせると、帰りがけに呑みにいっては色々な話をしました。考え方のしっかりした人で、仕事の相談をしたり、渋谷区の施設へ訪ねて行ってアドバイスをもらったこともあります。とても頼りがいのある兄貴のような存在で、多くのことを教えてもらいました。

彼は４年前から『広島・長崎リレーマラソン』にひとりで参加して完走を目指す、という無謀とも思えるチャレンジをしていたのですが、あと少しのところで目標は達成できていませんでした。事件後、「彼のために何かできないか」と仲間たちと考え、『広島・長崎リレーマラソン』に参加することを決意。未完で絶たれた彼の挑戦を、同志とともに成し遂げようと思ったのです。

とびきりの達成感とかけがえのない絆

我々のグループは、総勢29名。彼とつながりのあった仲間が集結し、３班に分かれて担当のエリアをリレー形式で走行。最初私は広島県の山越え区間を約７km走りました。その後も彼に思いを寄せる仲間たちが心をひとつに、昼夜早朝問わず走って襷をつなぎ、最終日には長崎の眼鏡橋に集合して、全員で歩いて爆心地公園にゴール。私は慣れない長距離を走ったことで膝にはダメージを受けましたが、とびきりの達成感とたくさんの仲間と走れた喜び、かけがえのない絆をいただきました。

関門トンネル人道でついに九州突入！

初日から三日間で総走行距離20数キロ。ラストランで精魂つきた若松園長＠佐賀県

何よりも子どもの利益を最優先に！

事件については、「精神的に不安定だった元入所者(加害者)に、むやみに関わったから事件を招いたのでは」という声も聞こえてきましたが、それは断じて違うと思います。たとえ相手がどんな状況だろうと、関わり続けていかなければなりません。

児童養護施設では、自立したら１０年間、家庭に引き取られたら５年間、子ども一人ひとりの計画に基づいてアフターケアをしています。ときには卒園した子どもの就職先に挨拶に行ったり、ひとり暮らしの部屋へ様子を見に行ったりもします。「卒園したのだから、あとは自分で頑張れ」ではなく、巣立った後も見守っていくのが施設の責務です。

施設長として私の中心にある揺るぎない思いは、「何よりも子どもの利益を最優先に！」です。子どもたちのために何ができるかを日々考えて、考え続けていくことが重要だと思っています。

そして、児童養護に携わる者として、志半ばで旅立ってしまった同志がやろうとしたことを、生きている私たちが引き継いで形にしていかなければ、と考えています。（談）

委員会紹介スペシャル

衛生委員会　聖友乳児院編

※衛生委員会とは？
常時使用する労働者が50人以上の事業場には、「衛生委員会」の設置が義務付けられている（労働安全衛生法第18条）。労使が一体となって、労働者の危険や健康障害を防止するための対策を講じることが目的。

聖友ホームでは、乳児院・学園ともに全職員がさまざまな委員会に所属し、活動をしています。これまで７回にわたり連載してきました委員会活動報告ですが、締めくくりに今号・次号で『衛生委員会』を特集。まず今回は、聖友乳児院の『衛生委員会』についてご紹介します。

1 主な活動内容

- ●メンバーは、乳児院長、看護主任、心理士、各クラスの副主任2名、計５名
- ●月１回　委員会を開催
- ●備品に破損がないか、室内の温度が適切であるかなど事故防止や健康障害の防止を目的とした定期的な職場巡視チェック
- ●職員のストレスチェックの実施と分析（外部機関による）、分析結果の現場へのフィードバック

2 聖友乳児院・衛生委員会の特色

＊産業医と連携して職員のメンタルヘルスの向上に努め、職場環境の改善に向けて話し合い、対策を講じている。

＊大人目線のヒヤリハット（事故につながりかねない危険な状況や事例）を検証し、労働環境の安全面についても意識を高める取り組みを行っている。

＊約半年に１度、同じ敷地内にある聖友学園と合同で委員会を開き、それぞれの活動について報告し合う。子どもの年齢が両施設で異なるため、違う観点を参考にしたり、役立つ情報を共有したりなど双方にとって有意義である。

感染症の予防に
マスクは必須

3 成果の一例

＊年一回のストレスチェックで「職場のストレスリスクが高めである」と診断された際、結果を検証して対策を考え、各クラスで実践すると、翌年の検査ではストレスリスクが全般的に下がった。
改善例としては、「他の職員に助けを求めやすくなった」「ペースがつかみにくい新人職員が仕事の優先順位を考えて取り組めるようになった」「職員がお互いに声を掛け合うことが増えた」などが挙げられる。

＊子どもから感染した風邪やインフルエンザなどで休む場合「病欠扱い」となり、有給を減らさず休めるよう改善された。

今後の課題や目標

「今後も職員のメンタルヘルスケアを重要視し、ストレスが軽減される取り組みを研修などで学び、実践していきたいと思います。また、乳児院では赤ちゃんの抱っこなどによって保育士の体への負担も大きいので、腰痛・肩こり体操の講習など体のメンテナンスについても考えています。

発足からまだ２年程の委員会ですので課題はたくさんありますが、職員の心と体の健康のためにしっかり取り組んでいきたいたと思います。（榎本心理士）」

職員エッセイ

聖友ホームの職員が、日々の仕事の中で感じたこと・考えたこと・発信したいことなどを思い思いの言葉で綴ります。

子どもの成長を感じられる瞬間

トレニアホーム　落合紗彩（入職３年目）

私が初めて聖友学園に来たのは、3年前の7月に行われた流しそうめんでした。その時私はまだ大学3年生で、ボランティアとして参加させて頂きました。初対面なのにたくさん話してくれる児童たちにその時は嬉しく思いましたが、今思えば人の出入りが多い環境で育つことに慣れ、警戒心やパーソナルスペースがなく距離感の取り方が難しい子が多いのだろう、と思います。

ですが、ホーム職員として関わるようになり、そのような環境であっても日々の対話や振り返りによって正しい距離感や人との関わり方について児童らなりに学び、成長しているのだと感じることが多いです。

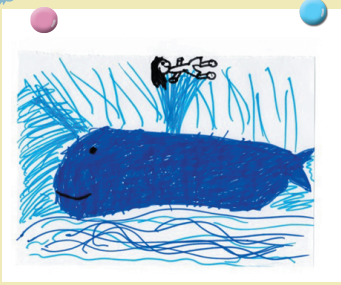
特に学校での姿を見られるのはとても貴重で、授業参観や運動会、入学式等の行事では思わず泣いてしまったこともありました。ほんの些細な成長でもとても嬉しいですし、この仕事の魅力だと思います。

最近では学校への送迎をしている特別支援学級の児童（小４男児）に、ひとり登下校の練習をさせてみた日のこと。普段職員と一緒の際には“あいさつ運動”のかたに恥ずかしがって挨拶ができなかったのですが、ひとり登下校の練習時には「おはようございます！」と元気よく挨拶しており、後ろから見守っていた私はとてもびっくりしました。その他にも横断歩道では手をしっかりと挙げて渡るなど、今までには見られなかった姿に涙が出そうになるくらい本当に嬉しく感じました。

それと同時に、私たちが思っている以上に子どもたちは子どもたちなりに考え、日々成長しているのだなと感じます。子どもたちが大人になった際にできるだけ困らぬよう話すべき事は伝えてはいきますが、見守り、子ども自身の成長を促すことも大切にしていきたいと思います。

聖友子どもギャラリー

聖友学園の子どもたちが、ご支援してくださる方々への年賀状やお礼状用に描きました



※今回、編集後記はお休みさせていただきます

発行　社会福祉法人
聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）　聖友学園（児童擁護施設）　〒166-0001　杉並区阿佐谷北3-28-19
聖友乳児院　TEL 3338-1849　FAX 3338-4679
聖 友 学 園　TEL 3338-1844　FAX 3338-1894
Eメール　sasaetai@seiyuhomu.or.jp　ホームページ　http://www.seiyuhomu.or.jp/